

表3 全国で主要な位置を占める

種 類	本県水産物 (昭和52年農林統計)		全国的な位置	
	生産量 (トン)	生産額 (百万円)	生産量 (%)	順位
あさり(天然)	65,732	5,565	42	1
はまぐり(天然)	4,178	2,089	84	1
くるまび(養殖)	573	3,551	51	1
まだい(養殖)	1,964	3,523	24	2
(かに)がざみ(天然)	399	610	13	3
ぼら(天然)	961	523	9	3
くるまび(天然)	202	1,154	8	4
まだい(天然)	912	2,141	5	5
のり(養殖)	百万枚536	6,870	7	5

表1 熊本県漁業の動向(農林統計)単位(生産量 トン生産額百万円)

項 目	昭45		昭50		昭53		伸び率(%)	
	生産量	構成比%	生産量	構成比%	生産量	構成比%	昭53/昭45	年率
経営体数	12,259	100	11,810	100	11,650	100	95.0	△ 0.6
うち沿岸	12,114	98.8	11,653	98.7	11,505	98.8	95.0	△ 0.6
遠洋・沖合	145	1.2	157	1.3	145	1.2	100.0	0
就業者数 人	27,360		22,701		23,420		85.6	△ 1.9
生産量	87,999	100	107,425	100	154,503	100	175.6	7.3
うち海面漁業	77,279	87.8	87,564	81.5	123,655	80.0	160.1	6.1
浅海養殖業	10,720	12.2	19,861	18.5	30,848	20.0	287.8	14.1
生産額	11,735	100	30,634	100	61,157	100	521.2	22.9
うち海面漁業	6,675	56.9	16,988	55.5	33,926	55.5	508.3	22.5
浅海養殖業	5,060	43.1	13,646	44.5	27,231	44.5	538.2	23.4

区 分	生産額		対前年度増加率	所得額		対前年度増加率
	51年度	52年度		51年度	52年度	
海面計	41,874	53,483	27.7	21,774	25,263	16.0
海面漁業	24,215	31,216	28.9	13,967	17,520	25.4
浅海養殖業	17,659	22,267	26.1	7,807	7,743	△ 0.8

(資料県民所得推計報告書)

このため、動物性たん白質供給量の過半を占める水産物の安定供給の担い手として、我が国の周辺海域の開発、特に沿岸漁業の振興を図ることが重要な課題となっております。

このような状況の中で、沿岸漁業主体の本県としては、周辺海域の恵まれた漁場条件を生かして、漁業生産の一層の増大と漁業経営の安定向上を図るため、「とる漁業」から「つくる漁業」へ漁業の体質転換し、漁場環境の保全に努めながら、魚礁漁場の造成、増養殖場の開発等の漁場の整備開発を計画的に推進するとともに、有用魚貝類の種苗の大量生産、放流、保護育成等による水産資源の維持増進に努めるなど、諸般にわたる施策を進めておりますが、本県の漁業の現況とこれらの事業の概要についてご紹介いたします。

増大と魚価の上昇により、四十五年に五・二倍の六百十一億円に達し、ほぼ順調に伸びています。(表1)

また生産額の増加に伴って、漁業所得も増加しております。(表2)

表をみて判るように、本県の漁業の特長として、のり、魚類、くるまび、真珠などの養殖の比重が大きいことがあげられます。この養殖業の全生産量に占める比率はほぼ二〇%ですが、生産額では四五・五%を占め、全国的にも主要な位置を占めています。その他、主として有明海の干潟のあさり、はまぐり等の貝類の生産量は約七万トンで、本県の海面漁業生産量の過半に近い生産をあげ、全国生産量の四二%第一位を占めています。(表3)

このように本県の漁業生産は、全般的にはほぼ順調に伸びておりますが、この生産の増大を支えているものは、あさり、まいわしの豊漁と養殖生産の増大など限られたもので、多数の漁業者の依存度の大きい沿岸の中高級魚貝類の生産は、それ程大きな伸びは見られず、種類によっては減少傾向のものもあり、また魚価もこれまでの経済高度成長時代のような大幅な上昇はないと思われ、需要の強い中高級魚貝類の安定供給と、漁家の経営安定を図るためには、一層の生産の増大を図ることが必要です。このため次のような生産面の対策を進めています。

## 水産資源の維持培養 ——栽培漁業の推進——

本県沿岸の水産資源の積極的な増殖を図るために、昭和四十九年から四十年事業で、牛深市西の俣(下須島)に総事業費四億七千九百万円をもって、栽培漁業センターを建設し五十三年四月に開所しました。

この栽培漁業センターでは、当面まだい、ひらめ、いしだい、あわびの種苗を生産し、県下沿岸の適地に放流して、これらの資源の増殖を図ることとしております。またい、種苗などの一部は、養殖用の種苗として供給し、養殖生産の安定に寄与するとともに、天然産の種苗に依存している養殖用種苗を、将来は、人工種苗に切りかえることによって、天然産種苗の保護の役割を果すこともねらいの一つとしております。

種苗生産の当面の目標は、昭和五十六年度において、まだい三百万尾、いしだいで六十万尾、ひらめ三十万尾、あわび五十万尾を生産することにして、技術の進歩とそれに伴う施設の改善を行いながら、生産目標を見直すとともに、生産する種苗の種類も多様化する必要があると考えております。

昭和五十五年においては、まだい二百万尾、いしだい五十万尾、ひらめ三十万尾、あわび五十万尾を生産する計画であります。

なおこのセンターの運営に当たっては、栽培漁業は、種苗生産、中間育成、放流、漁獲回収の過程を一貫して漁業者自ら行うことが理想であります。種苗の量産については、技術的に未解決の分野が多く、技術の開発と併行して進める必要があるところから、当面は県が管理運営することとしております。

将来の運営については、関係市町村、漁業団体等のご理解を得ながら、県を含めた公益的団体を設立して、この団体に種苗生産業務を委託していく方針であります。

このため、本年度予算に調査費を計上し、他県の実情も調査しながら、学識経験者、関係市町村、漁業団体の意見を拝聴して、本県の栽培漁業の推進体制の整備について、調査検討して参りたいと考えております。

# 周辺海域における 水産資源の開発と増養殖の推進

熊本県の海岸線延長は千キロメートル(全国六位)と長く、有明海、不知火海の約一万三千ヘクタールに及ぶ広大な干潟を有する内湾と、東シナ海の外洋に面して大小の島々と入江など地形の変化に富んだ天草島周辺の生産性の高い漁場に恵まれています。

これらの漁場を生産の基盤として、釣・刺網・まき網などの漁船漁業と、浅海干潟漁場のあさりなどの採貝、のり、

## 熊本県の漁業の現況

たい、ぶり、くるまび、真珠等の養殖など、沿岸域を主漁場とした多様な形態の漁業が展開されております。

このような熊本県の漁業の動向をみてみますと、海面の漁業経営体数は、昭和五十三年には一万一千六百五十で、九八%以上を沿岸漁業が占め、四十五年に比べて若干(五%)減少しました。五十三年の漁業生産量は、十五万四千トンで四十五年の一・七六倍、生産額は生産量の

たい、ぶり、くるまび、真珠等の養殖など、沿岸域を主漁場とした多様な形態の漁業が展開されております。

このような熊本県の漁業の動向をみてみますと、海面の漁業経営体数は、昭和五十三年には一万一千六百五十で、九八%以上を沿岸漁業が占め、四十五年に比べて若干(五%)減少しました。五十三年の漁業生産量は、十五万四千トンで四十五年の一・七六倍、生産額は生産量の